



No.39
2021/06/01



宗谷農業改良普及センターだより 通巻39号 (令和3年6月1日) ■バックナンバー 宗谷普及センターホームページ http://www.souya.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/katsudou/ayori_top.htm

そやのひと

令和2年度北海道農業士認定

北海道農業士に豊富町の山本^{しげる}薫さん、山本^{あり}阿利さんの2名が認定されました。

「同世代または次世代に農業を目指す人材と情報交換を行い、お互いに向上心を持って農業に取り組みたいと考えています。また、他業種の方々にも農業の素晴らしさを伝えていきたいと考えています」(薫さん)

「家庭、仕事の両立は大変ですが、家族で支え合いながら働くことの素晴らしさや、酪農の楽しさを多くの人に伝えていきたいと考えています。まだまだ未熟ですが、農業士として地域農業の発展に貢献していきたいと思ひます」(阿利さん)と抱負を語っていただきました。

今後、ますますの活躍が期待されます。



職員紹介

転入者

- 宗谷本所**
- きた ひろあき
次長 北 寛彰
(釧路農業改良普及センター
釧路東部支所より)
- いちかわ ひろし
主任普及指導員 市川 宏
(釧路農業改良普及センター
より)
- おにざわ まさる
主査(担い手) 鬼澤 勝
(上川農業改良普及センター
大雪支所より)
- よしざわ ひろみ
普及職員 吉澤 宏海
(新規採用)

- 宗谷北部支所**
- こいずみ としあき
支所長 小泉 俊明
(北海道立農業大学校より)
- おおしま まさひろ
専門主任 大島 政博
(十勝農業改良普及センター
より)
- うすい さきょう
普及職員 薄井 左京
(新規採用)

お世話になります。
よろしくお願いいたします。

転出者

- お世話になりました。
- 大城 敬二 (十勝農業改良普及センターへ)
川原 成人 (渡島農業改良普及センター渡島北部支所へ)
榎田 純子 (根室農業改良普及センターへ)
齋藤 裕太 (北海道立農業大学校へ)
- 米田 美保 (十勝農業改良普及センターへ)
杉村 翔子 (留萌農業改良普及センターへ)
立石 愛一 (退職)

重点活動の紹介

- 中頓別町
 - 豊富町福永地区
- そやのひと
- 令和2年度北海道農業士認定
- 職員紹介 他



今号の表紙

中頓別町醸造用ブドウ試験栽培 4年目始動

中頓別町ではブドウの試験栽培を行っています。写真は架線設置の様子と昨年3年目で初めて実ったブドウです。

普及センターでは高付加価値化の計画活動として、データ蓄積、技術情報提供など中頓別町でのブドウ栽培の可能性に向け支援中です。

おしらせ 宗谷農業改良普及センター

ホームページのQRコードについて
スマートフォン・タブレットからQRコードリーダーを立ち上げ、読み込ませると当普及センターのホームページがご覧になれます。



重点活動について

農業改良普及センターでは、地域の農業技術及び経営の課題を重点化し、地域農業の総合的な課題解決に取り組む重点活動を行っています。重点活動では、重点地区と関係機関協力のもと、5カ年計画で活動し、得られた成果を他の地域へ波及することで、地域農業の維持・発展につなげていくことを目的としています。
令和3年度は、新たな重点活動のスタートの年となります。
これまでの重点活動（平成28年度～令和2年度）と今後の重点活動の方向性についてご紹介します。

重点活動紹介

中頓別町

次世代を担う経営者育成による地域の発展
～人・牛・地域を守る～

牛の安楽性（カウコンフォート）の改善、飼料給与の見直し、粗飼料の収量・品質の改善によって、乳量を増加させることを目的に、農場の皆さんと様々な取り組みを実施してきました。その一部を紹介いたします。

乳牛の飼養管理改善

搾乳牛のタイレールを移設（写真1）したA農場では、改善前と比較して個体乳量（乳検年間平均値）が7.5%増加し、27.3kg/日・頭になりました。

放牧時期と舎飼い期の飼料給与を見直したB農場では（表1）、年間の平均個体乳量が13.5%増加し、31.2kg/日・頭になりました。



写真1 タイレール移設後の搾乳牛(A農場)

水飲みやすい♪

表1 搾乳牛に与えた飼料成分(B農場、一部抜粋)

飼料乾物中濃度 (%)	粗タンパク質 (CP)		非繊維性炭水化物 (NFC)	
	舎飼い期	放牧期	舎飼い期	放牧期
改善前*	12.5	21.2	39.0	27.0
改善後**	15.7	15.7	37.1	34.6

*令和元年 **令和2年 各年の平均的な飼料設計成分を表記

テンブンなどのエネルギー源

粗飼料生産・調製に関する改善

牧草収量を増加させるために、2年間で65kg/10aの炭カルを散布したD農場では、1番草（チモシー中生主体草地）の収量が25%増加しました。

細切サイレージを調製している農場に対して収穫作業前のサイロ清掃の徹底や、サイロ前の泥ねい化対策などの情報を発信し、各農場で対策されたことで（写真2）、細切サイレージの発酵品質（Vスコア）のばらつきが小さくなり品質が安定化しました。

このほかにも、水槽洗浄の徹底、サイレージの給与量を増やしたり餌寄せによる乾物摂取量の増加によって個体乳量が高まりました。また、飼養頭数も4.6%増頭したことから、取組前年の平成27年と比較して地域の出荷乳量は6.8%増加しています。

令和3年度からは、中頓別町松音知地区の皆さんとともに、放牧地の有効利用や初産牛の乳量向上に向けた取り組みを進めます。



写真2 サイロ前に設置されたプラスチック製のパネル(B農場)

重点活動紹介

豊富町福永地区

生産効率の改善で持続性ある地域酪農の確立
～めりはり酪農でがっちり稼ぐ～

放牧技術の高度化や省力的な飼養管理の実現による生産性と所得の向上を目的に、地域の皆さんと様々な取り組みを実施してきました。その一部を紹介します。

放牧技術の改善

A農場では、放牧開始早期化による放牧草の有効活用等によって5月の出荷乳量は前年対比で約20%増加しました（図1）。さらに不食過繁草の低減対策として、乾乳牛や育成牛による後追い放牧の取り組みが行われました。

4つの農場で追播による植生改善が取り込まれました。B農場では、追播後の牧草割合増加によって植生が改善され、追播効果が十分に認識されました（図2）。

管理作業改善による省力化

C農場では、給餌機の導入により給餌作業負担が軽減され、導入後は給与作業時間が1日あたり1時間程度削減されました（写真1）。細切サイレージの給与期間を考慮すると、年間180時間程度の労働時間削減につながりました。

ミルカーユニットレールを設置したD農場は、ユニットを持つ重量移動が無くなり、搾乳時（1日）の総移動距離が1,300㍎から666㍎へ短縮しました（写真2、表1）。特に女性の作業負担が減り、作業効率の向上に大きな効果がありました。

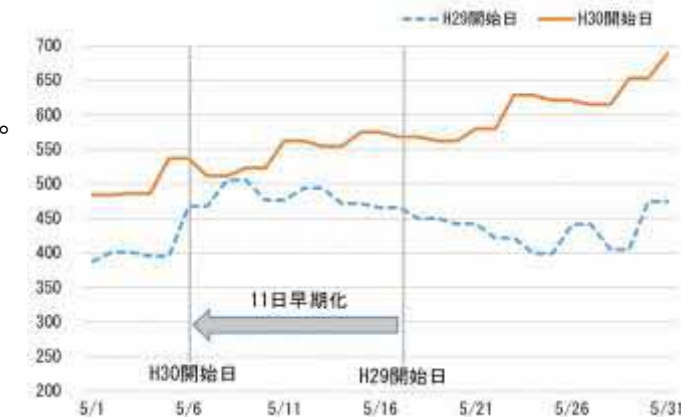


図1 A牧場の5月乳量の推移比較

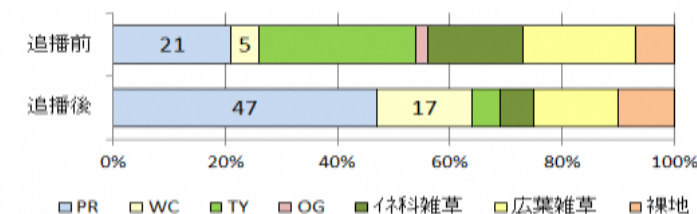


図2 追播前後の植生状況 (B農場)



写真1 給餌作業改善 (C農場)

写真2 ミルカーユニットレールの設置 (D農場)

表1 導入前後の比較 (D農場)

搾乳時 (1日) の歩行距離		経営主	妻	合計
設置前	総移動距離 (m)	134	1,166	1,300
	ユニット保持移動距離 (m)	(134)	(762)	(896)
設置後	総移動距離 (m)	258	408	666
	レールによる移動距離 (m)	(258)	(378)	(636)

農家の声

農場A：「放牧を早くしたら、いつもよりも早く乳量が伸びた！」
農場B：「いつもより食わない放牧草が少なくなったよ！」
農場C：「手作業での給餌が機械で出来るようになって身体が楽だよ！それにサイレージの水分量が多くても作業時間が変わらないのは助かるよ！」
農場D：「ミルカーユニットレールを付けたら重いユニットを持たずに済み、楽になりました！他の人にも伝えたい」

放牧地の有効活用、地道な施設・機械への投資、適期収穫による良質粗飼料の確保などの取り組みが行われた結果、地域平均出荷乳量が、取組前年の平成27年対比で104%と増加し、順調に所得を確保することができました。

令和3年度からは、豊富町目梨別地区の皆さんとともに、牛舎施設整備による飼養環境改善や飼料作物栽培技術向上による良質粗飼料確保に向けた取り組みを進めます。